

そなた時代で十の一生は、じて身を機会があつた。サケは生まれた川から海へ出ると、はるかアメリカのアラスカ海まで渡り、成長すると産卵のため必ず故郷の川に戻る習性があるが、無事に戻るのはわずか数パーセントだそうだ。産卵のためにサケは必死に川を上り、巣を作り、卵を生んだ親サケはボロボロになりながら死んでしまうのだ。

そんなサケの一生を知ったぼくは、今までの自分が恥ずかしくなつた。サケは、そう絶な思いと命がけの旅をして、自分達の命を必死につないでいるのだ。ぼくは、この命のリレーのバトンをつなぐサポートをしようと心に誓つた。やがて、卵は発眼し卵の中に目ができた。卵膜のかすや泡で水その汚れがひどくなり、水その水替えが忙しくなつたが、ぼくは一生けん命お世話をした。

春風が吹く二月の放流の日、サケ達は那珂川から旅立つた。僕は心中でつぶやいた。絶対戻ってきてね。また会おう。今度会う時にはぼくは中学生だ。大きくなつた君達に会えるのを楽しみにしているよ……。

茨城大学教育学部附属小

茨城大学教育学部附属小学校 六年

命のサポート



やんのよハに、やいと語を聞いてくれ、そつと心によりそつてくれぬ。

やして、なによりもおもしろこと思つのが自然なうやはの「」セレ」だ。同じなのに、よくみるといがいじゆくを、わたしは体育のじゆ業で習つた「」セレ」といふ言葉で言ひ表せると思つ。そして、その「」セレ」を見ているのが樂しい。「」の木は、せが高いから〇〇わやん。」の木は周りとひよひちがつて、「」セレ」的だから〇〇〇君と、クラスメートであてはめるほひだ。だから、わたしは人間社会が人間じやなく「木」や「虫」や「草」になつただけのものが自然だと思つ。よく見ると、あなたみたいなやつもいる。いいすきかもしれないが、わたしは、世界中の人々が自然で表せる今まで思つてらる。一回もふづが、わたしは自然が大好きだ。けど、そんなわたしも気づかぬうちに自然をいためつけている。たとえば、わたしは絵を描くことも好きだ。けど、うまくいかないと紙をクシャクシャにして、「ミ箱にポイッとしてしまう。その紙が木からできていると、知つた時、わたしは悲しかつた。なだけなかつた。くやしかつた。なのでわたしは大人になつて自然の危機について語つて、人々に知つてもいわうと思つ。

わたしの大好きな自然のために。

風がそよそよとふく。ビルが静かで、ビルが
にぎやかで。緑をメインに木がそびえたりてい
る。わたしは森が大好きだ。心がさすついてい
る時、森は絆創膏になり、やせこわきすをついつ
いでくれる。かなしご時や、うれしご時は、お母

一
姓
考

船橋市立高根台第三小学校 五年

